

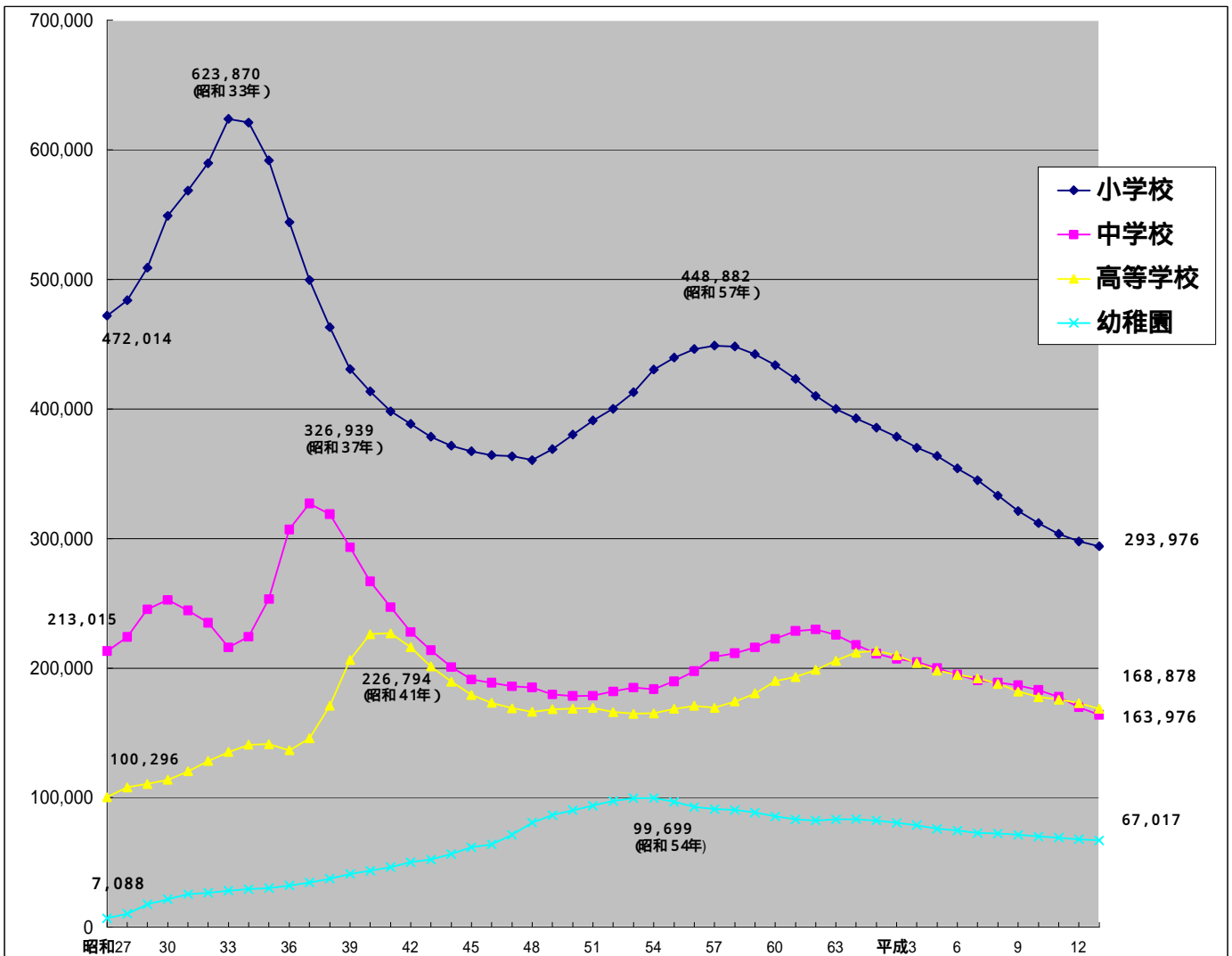
## 調査結果の概要

### (1) 学校数・在籍者数

平成13年度の学校数は国公立併せて小学校792校、中学校378校、高等学校186校、盲学校4校、聾学校5校、養護学校31校、幼稚園530校である。前年度に比べ小学校で3校、中学校で1校、幼稚園で7校の減少である。

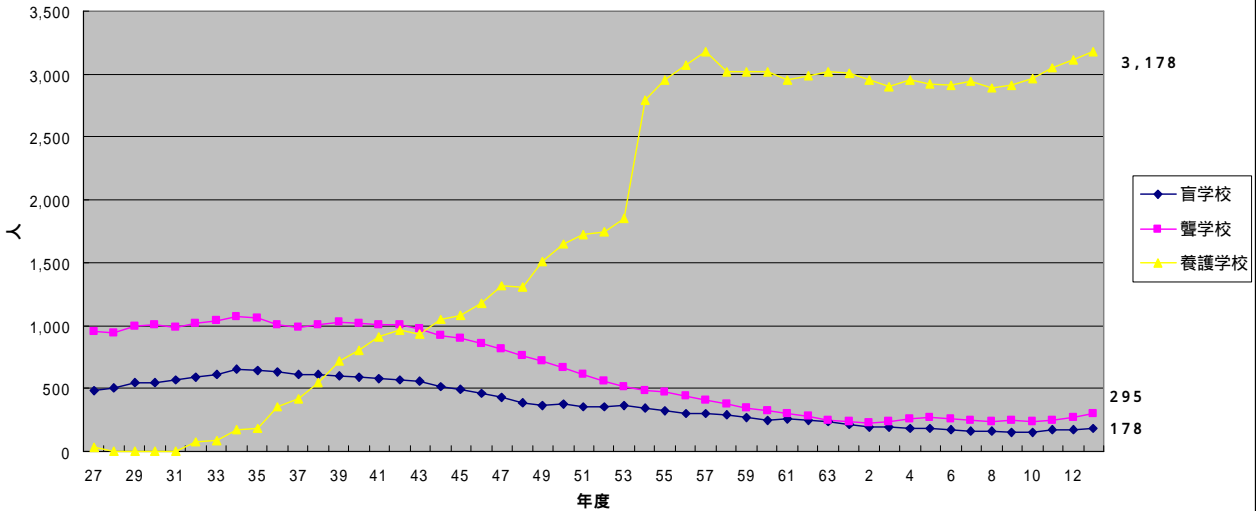
毎年5月1日の小・中・高等学校における幼児・児童・生徒数の推移について表したものが図1-1である。近年の在籍者数の減少傾向は著しく、小学校在籍児童数で見ると戦後2度目のピークである昭和57年の448,882人以降は連続的に減少傾向にあり、平成13年度の小学校在籍児童数で293,976人で、昭和27年の調査以降過去最低である。

図1-1 幼稚園・小・中・高等学校 幼児・児童・生徒数の推移 (表2より)



幼児・児童・生徒数の盲・聾・養護学校について表したものが図1-2である。  
 平成13年度の在籍幼児児童生徒数は盲学校で178人、聾学校で295人、養護学校で3,178人である。障害別内訳で見ると知的障害が2,401人、肢体不自由が639人、病弱が138人である。

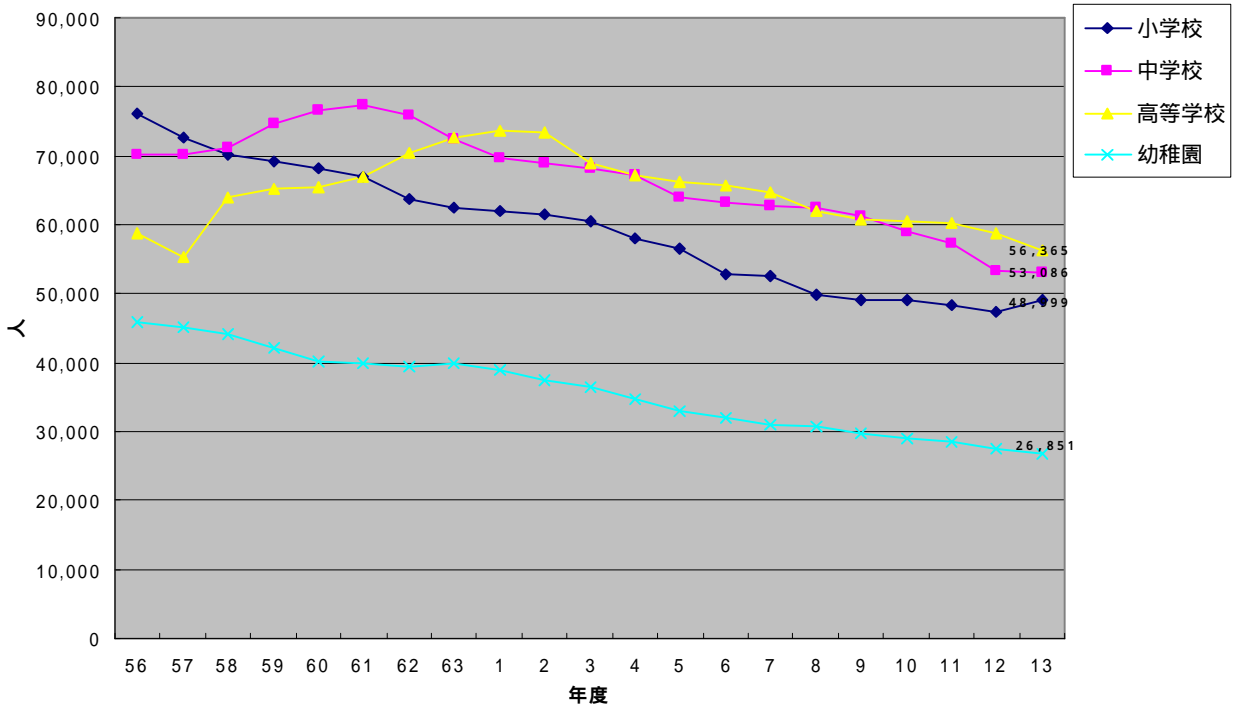
図1-2 盲・聾・養護学校 幼児・児童・生徒数の推移 (表2、表14より)



(2) 入学者・入園者・第1学年児童生徒数

過去20年間の入学者・入園者数の推移を表したものが図2である。  
 平成13年度の入学状況は幼稚園(3歳・4歳・5歳入園の合計)で26,851人、小学校(第1学年数)で48,999人、中学校(第1学年)で53,086人、高等学校(本科)で56,305人であり、小学校以外の学校種別で減少傾向が見られる。

図2 年度別入学・入園者数の推移 (表3より)



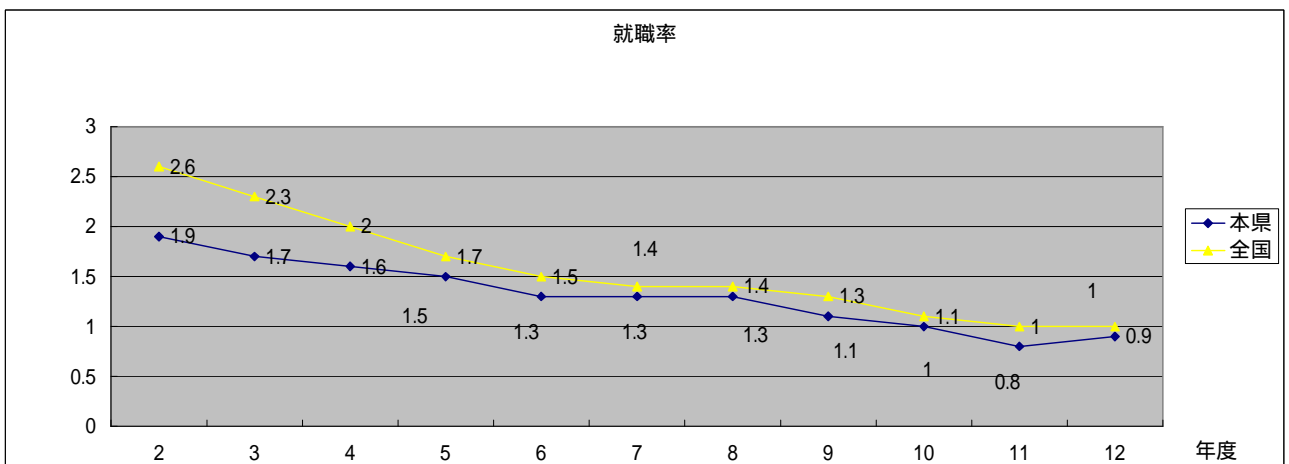
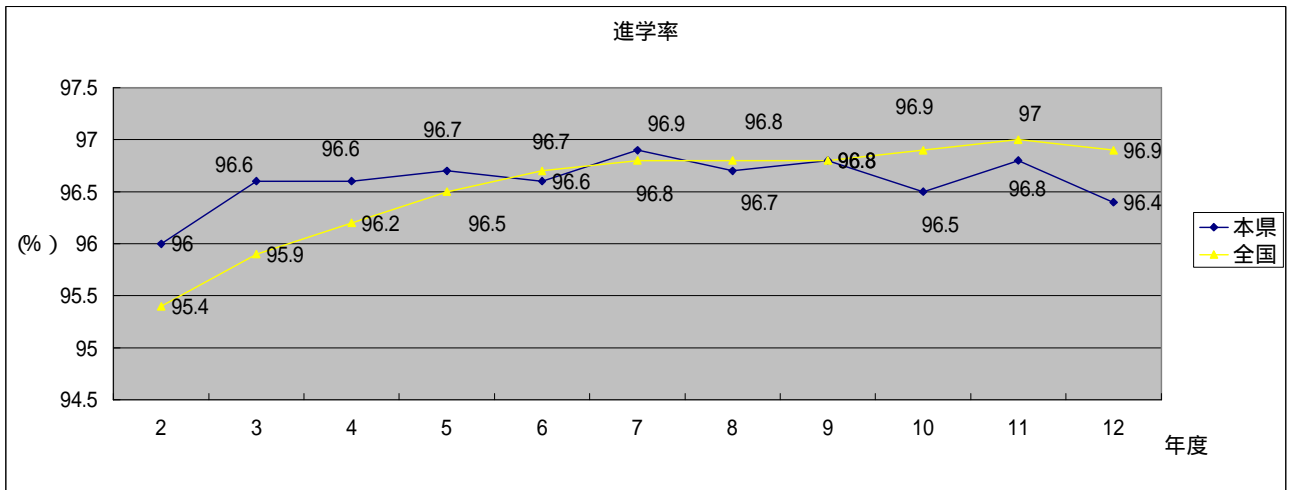
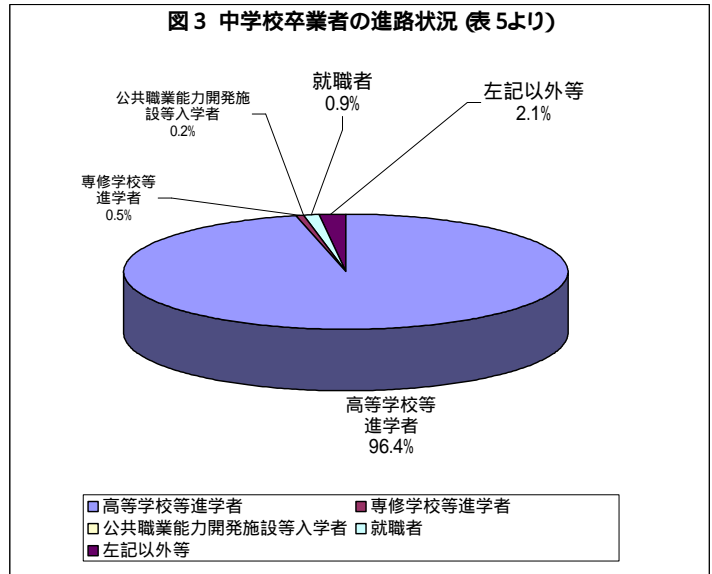
### (3) 中学校卒業後の状況

中学校卒業者の進路状況は、図3のとおりである。卒業者総数59,152人のうち、高等学校等進学者は、57,003人、専修学校等入学者274人、公共職業能力開発施設等入学者120人、就職者529人、左記以外・死亡・不詳1,226人である。

また、就職進学者は高等学校等進学者のうち、25人(0.0%)、専修学校等入学者のうち1人(0.0%)、公共職業能力開発施設等入学者のうち0人(0.0%)である。

中学校卒業者の進学率・就職率の推移は、図4のとおりである。

平成12年度(平成13年3月卒)における本県の進学率は96.4%で前年度から0.4%下降しており、就職率は0.9%で前年度から0.1%上昇している。

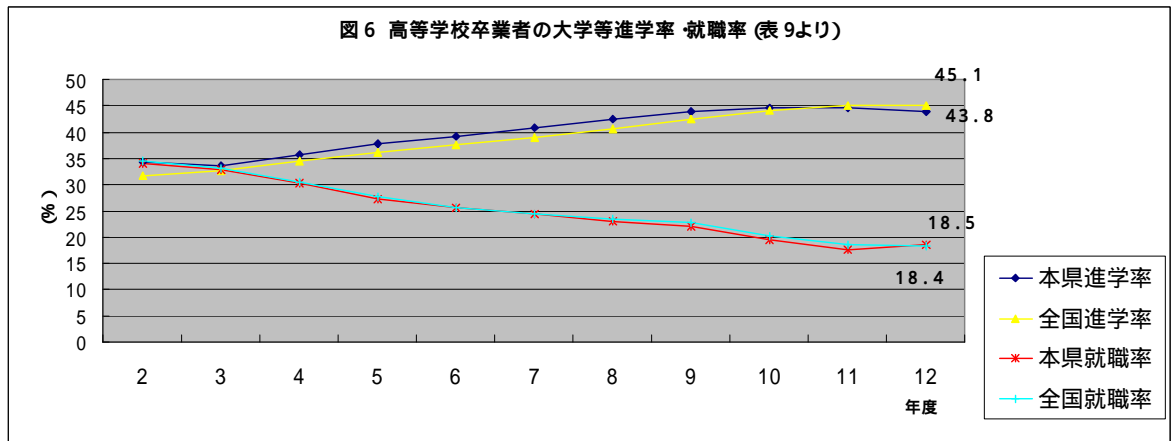
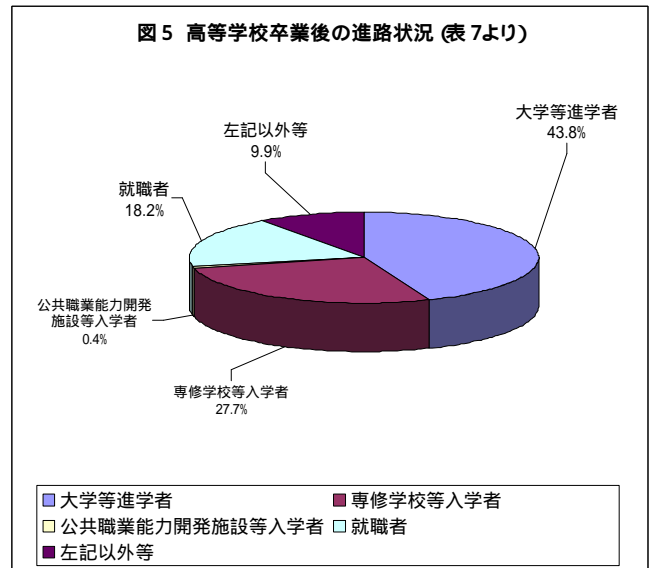


(4) 高等学校卒業後の状況

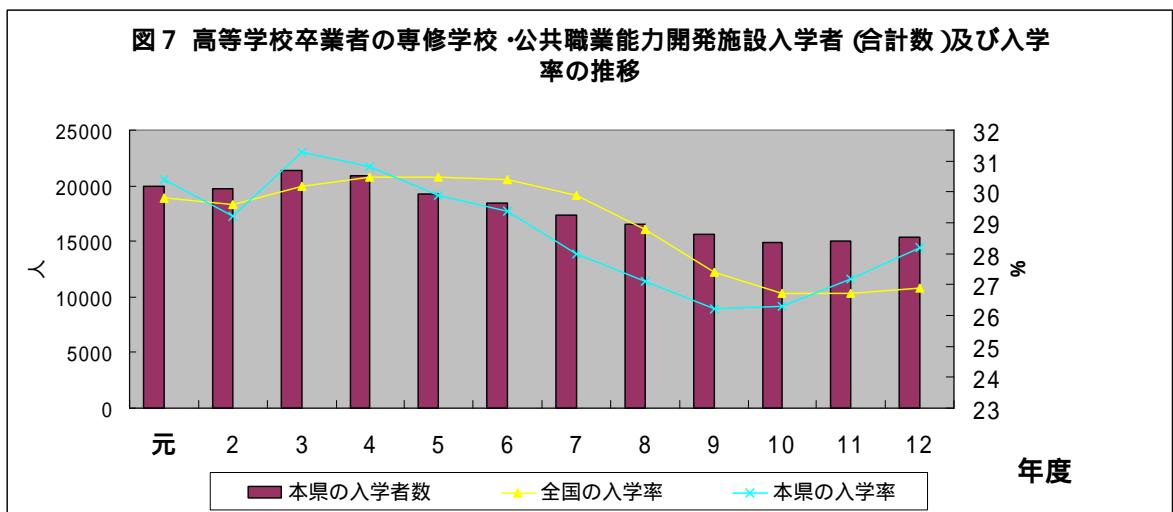
高等学校卒業者の進路状況は図5のとおりである。  
卒業生総数 54,671人のうち、大学等進学者は 23,922人、  
専修学校等入学者は 15,167人、公共職業能力開発施設等  
入学者は 244人、就職者 9,940人、無業者・死亡・不詳  
5,398人である。

また、進学者のうち、就職進学者は大学等進学者のうち  
13人(0.0%)、専修学校等入学者のうち 169人(0.3%)、  
公共職業能力開発施設等入学者のうち 1人(0.0%)である。

高等学校卒業者の進学率・就職率の推移は、図6のとおりである。  
平成12年度(平成13年卒)における本県の進学率は43.8%で  
前年度から0.9%下降し、就職率は18.5%で過去最低となった  
前年度より0.9%上昇している。

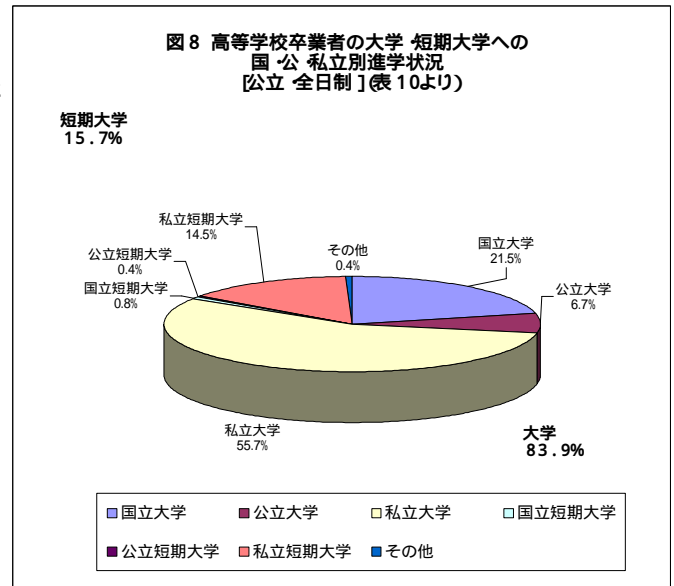


高等学校卒業者のうち、専修学校等及び公共職業能力開発施設への進路状況は、図7のとおりである。  
平成12年度卒業者のうち入学者数は15,411人(28.2%)であり、昨年度から1.0%の上昇である。



公立全日制高等学校から大学・短期大学等に進学した14,230人のうち、大学・短期大学への国・公・私立別進学状況は図8のとおりである。

最も多いのが私立大学への入学者で7,928人、ついで国立大学3,059人、私立短期大学2,064人、公立大学953人、国立短期大学51人、その他(大学・短期大学の別科、高等学校の専攻科及び盲聾養護学校高等部専攻科等へ進学した者)62人となっている。

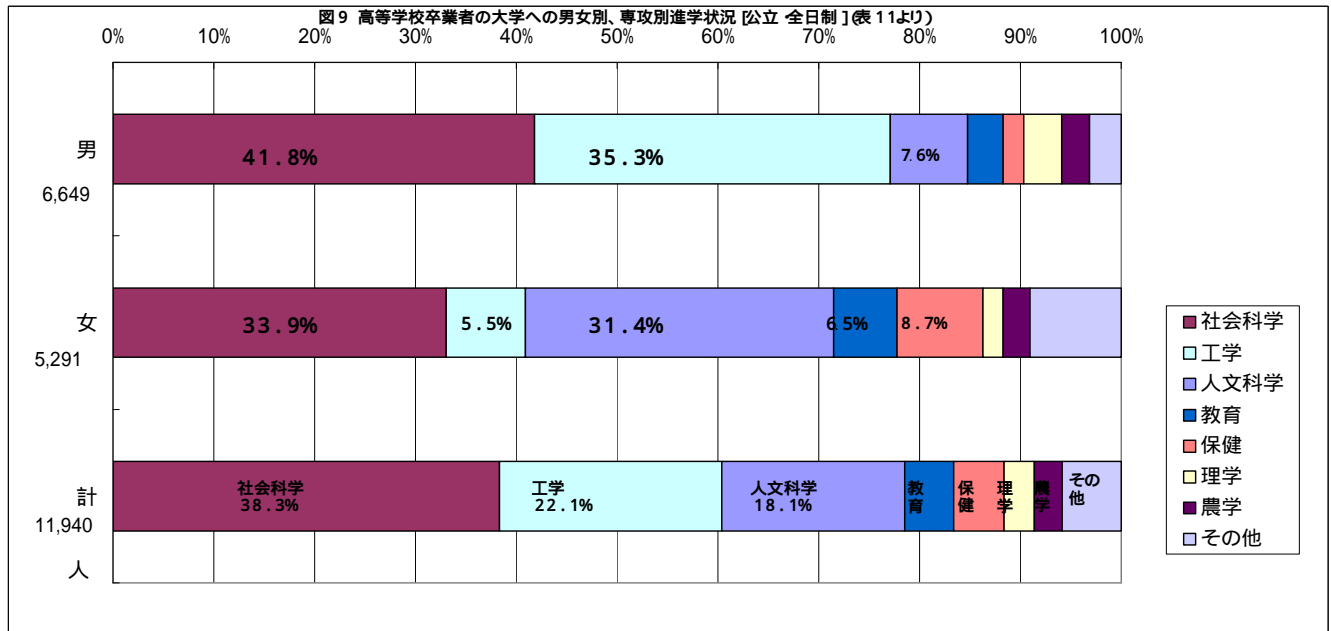


大学と短大の比較では、大学に進学した卒業者の全体に対する割合が昨年の82.3%から83.9%に上昇したのに対し、短期大学への進学者は17.2%から15.7%へ減少しており、大学への進学割合が増加している。

国公立別では、国公立大学・短期大学の進学者の割合が28.4%から29.3%に上昇したのに対し、私立大学・短期大学への進学者は71.1%から70.2%に減少し、国公立への進学者が増加している傾向にある。

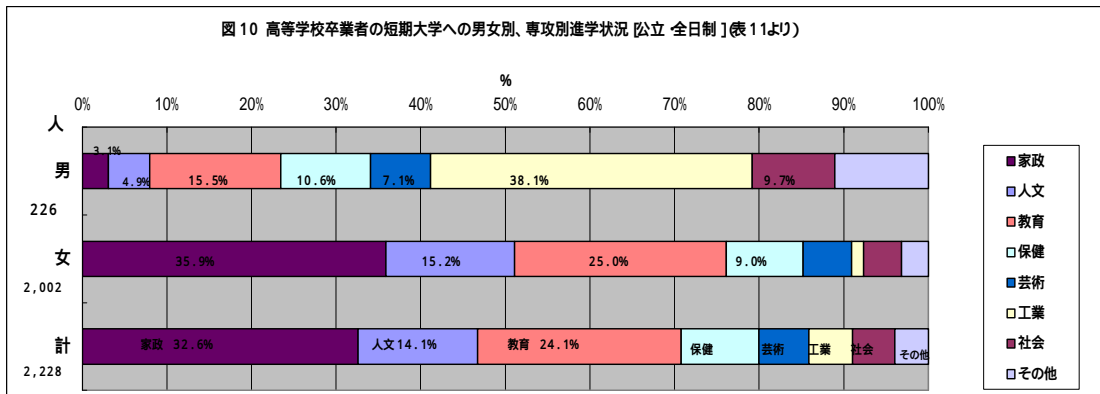
公立全日制高等学校卒業者の大学・短期大学等への専攻別進学状況は図9のとおりである。男子の大学進学者は6,649人、女子の大学進学者は5,291人である。

大学進学者で見ると、男女いずれも社会科学関係でもっと多く、全体で38.3%、男子で41.8%、女子で33.9%となっている。次いで男子で多いのは工学関係で35.3%、一方女子では人文科学が31.4パーセントを占めている。(図中のその他には商船、家政、芸術、その他を含む。)



公立全日制高等学校卒業者の短期大学への専攻別進学状況は図10のとおりである。男子の短期大学進学者は226人、女子の短期大学進学者は2,002人である。

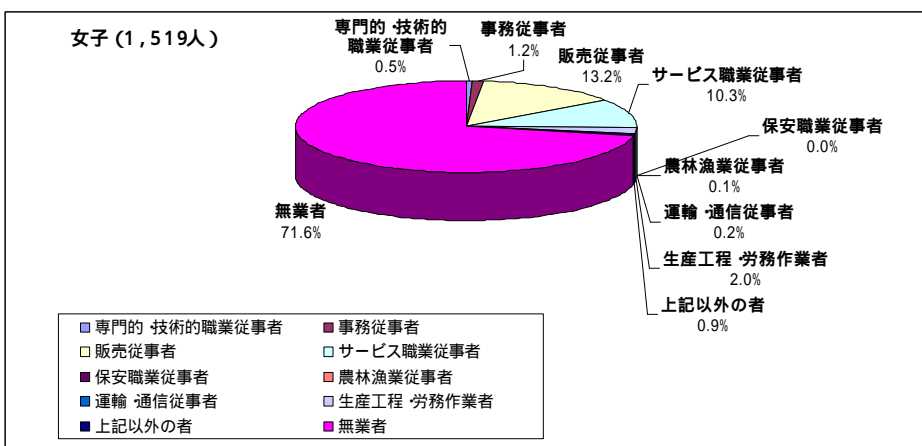
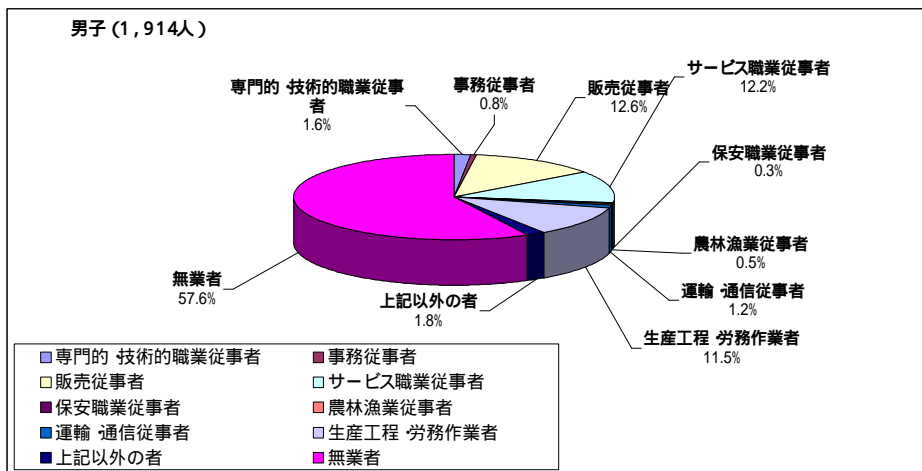
男子で多いのは工業関係で38.1%、次いで教育15.5%、保健10.6%となっている。女子では家政関係がもっと多く35.9%を占め、次いで教育25.0%、人文15.2%となっている。  
(図中のその他には教養、理数、農業、その他を含む。)



(5) 定時制課程在籍生の男女別就業状況

高等学校定時制課程の生徒の就業状況を男女別に表したものが図11である。男女とも無業者の占める割合が最も多く、男子では1,102人(57.6%)、女子では1,088人(71.6%)である。次いで多いのが男女共に販売従事者であり男子では241人(12.6%)、女子では200人(13.2%)である。

図11 高等学校定時制課程在籍生の男女別就業状況 (公立) (表12より)



(6) 学校教育法第75条の学級「(特殊学級)」の状況 (公立)

学校教育法第75条の学級「(特殊学級)」の児童生徒数は、平成13年度で小学校1,321人、中学校629人である。図12は過去10年間の児童生徒数の推移であり 図13は平成13年度における障害の状況の構成を表したものである。

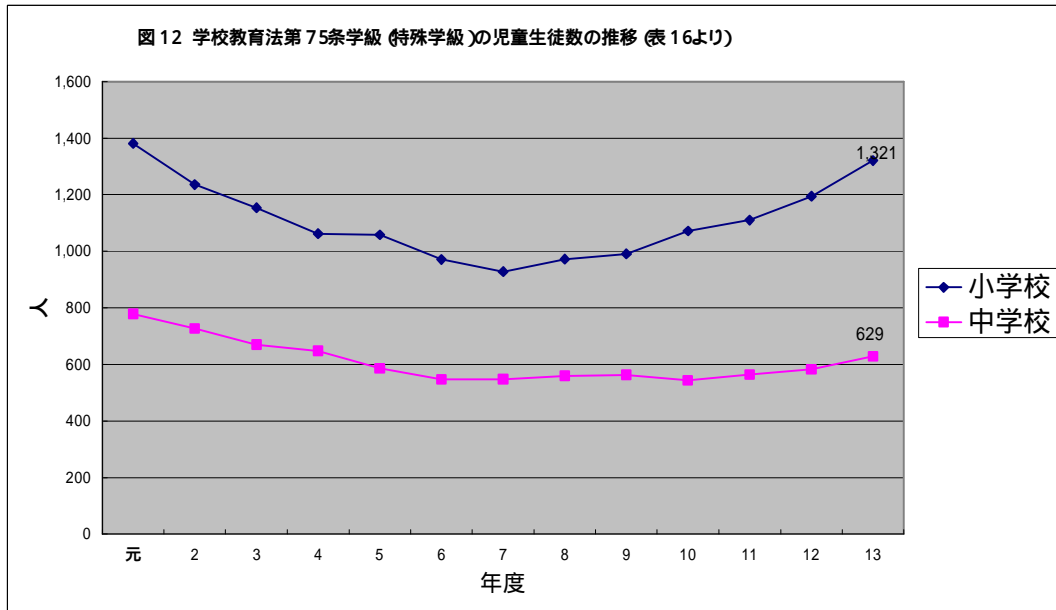


図13 学校教育法第75条学級(特殊学級)の児童生徒数の障害別内訳 (表16より)

